

青少年教育・体験活動ボランティア養成研修

令和5年5月20日(土)～21日(日)

【目的】

青少年教育の体験活動を支援するボランティアに求められる知識や技能を習得し、当自然の家におけるボランティア活動の充実を図る。

【参加者】 36名

【プログラムの内容】

1日目

- 10:00 オープニング
- 10:20 先輩ボランティアによる活動紹介
- 11:30 青少年教育や体験活動について深く知ろう
- 14:30 野外炊飯
- 19:00 徳地自然の家について知ろう

2日目

- 9:30 救急救命法
- 13:30 どんなボランティアをやりたい?
- 15:00 自然の家のボランティアになろう!
- 16:00 クロージング

「先輩ボランティアによる活動紹介」

講師：先輩ボランティア2名



先輩ボランティアからこれまでに参加した活動の紹介やボランティアを始めてよかったこと等について、スライドをもとに話を聞いた。アイスブレイクの活動も取り入れ、参加者同士の交流が生まれた。

「青少年教育や体験活動について深く知ろう」

講師：山口大学教育学部 准教授 藤上真弓



体験活動が子どもたちの人間形成に及ぼす影響や体験活動を設定する際に必要なこと等について学んだ。小学校生活科の視点から、子どもたちの発達段階に応じた人・もの・こととのかかわりについて理解を深めた。

「野外炊飯」

講師：国立山口徳地青少年自然の家 職員2名



野外炊飯での安全な道具の使い方や調理の仕方、薪を使った火のおこし方を体験を通して学んだ。初めて出会った参加者同士が、協力して活動することで交流を深めることができた。

「徳地自然の家について知ろう」

講師：国立山口徳地青少年自然の家 次長 福江大幸



今日の青少年の課題、青少年教育施設の役割、国立山口徳地青少年自然の家についての講義を受けた。ボランティアスタッフは「子どもたちの成長を促す意味ある大人としてかかわることが大切」だと学んだ。

「救急救命法」

講師：山口市消防本部中央消防署徳地出張所 指導員5名



傷病者に対して自分が何をすべきなのか、CPRとAEDによる一次救命措置の手順や方法について実技を通して学んだ。もしもの傷病発生時に備え、真剣に受講する姿が見られた。

「どんなボランティアをやりたい?」

講師：国立山口徳地青少年自然の家 職員



実際にTAPを体験した後、ボランティアをする意義・意味について考えた。「ボランティアをして得られるものって何?」というテーマでグループワークを行い、積極的な意見交換が行われた。

【参加者の声】

- ・ボランティア研修ということで、もう少しかたいものをイメージしていましたが、ただただ楽しく学ぶことができました。他大学の人などに関わる機会も少なかったのですが、こうして事業を通して人との繋がりを広げることが出来ることも良かったです。
- ・ボランティアは、この活動に参加する前までは人のためになることだけが頭に浮かんでいました。しかし、それだけではなく、自分にも経験や出会いなど沢山のものを得られることなんだと考え方が大きく変わりました。

【成果】

アンケート結果について、満足度4(最上位評価)が94%、満足度3が6%であった。修了者からは概ね法人ボランティア登録をしてもらうことができた。参加者アンケートの自由記述欄では、ボランティアに関する知識や技術が向上したことや新たな仲間との出会いに対する喜びの声、ボランティアへ参加することに対して前向きな感想等が多く見られ、ボランティア活動に参加する機運の高まりを感じた。

【課題】

今年度は、年2回の実施を予定していたが、2回目は参加者が集まらず開催することが出来なかった。開催時期や1回で養成するボランティアの人数を検討するなど、改善を図っていきたい。